

一般質問

6月議会では、14名の議員が市政に対して、一般質問を行いました。
議会だよりでは、一般質問の要旨を各議員の文責において掲載しております。
土岐市ホームページでは、インターネットによる議会映像の配信や定例会・臨時会の
会議録を掲載しています。ぜひアクセスして、詳細をご覧ください。

一般質問へのアクセス方法

視聴の場合	土岐市ホームページ ⇒ 市議会 ⇒
どちらかの 方法	議会ライブ中継 ⇒ 議会の日程から選ぶ ⇒ 一般質問
	⇒ 視聴したい日にち ⇒ 日時を選ぶ
	議会ライブ中継 ⇒ 議員の名前から選ぶ ⇒
文書の場合	土岐市ホームページ ⇒ 市議会 ⇒ 議会会議録検索 ⇒ 会議録検索システムへ

《第3回定例会一般質問》



西尾 隆久

◆市長の市政方針について

◎愛着を持てるまちづくり、地域の特色を生かしたまちづくりについて。

◎基本的に、市民が協同行動が活発になれば社会の効率性が向上すると考え、市民、行政とのコミュニケーション、又パートナーシップを高めることにより社会が豊かになると基本的に考えている。伝統工芸の育成、陶磁器産業の支援、土岐市の持つている地域の資源を活用するとともに、地域ごとの違う歴史や文化、自然、そして、それにかかわる市民も大勢おられ、そういった方々を再発掘する、あるいは支援をすることを中心に考えていきたい。

◎少子高齢化に向けたまちづくりについて。

◎公共施設の在り方、子育て支援の方向性、保育園、幼稚園の統合について、基本的には土岐市子ども子育て支援事業計画を踏まえ検討していきたい。公立保育園等の再編、認定こども園化を含めた幼児教育のための環境整備が大変重要なことである

と考え、そういった中で議論を踏まえ検討していきたい。

◎災害に強いまちづくりの推進について。

◎ハード面では、耐震補強工事への補助、あるいは橋梁の補強工事など、社会基盤を整備することにより災害に強いまちをつくるのもひとつの視点。ソフト面では、地域の防災リーダーの方、またその方々の育成、また防災計画といったものの継続的な見直し、そして防災士、自主防災組織、自治会の連携、いわゆる問題となっている共助のまちという中で、どのように災害を防いでいくのかということが大きな課題で、地域住民で助け合うというのが大きなテーマであると考えます。

◎市長と語る会、座談会等の開催について。

◎地域の皆さんの意見を直接伺う機会を設けるべき。今後、具体的なスケジュールについて検討、開催したいと思っている。

◎地域住民の生きがいづくりについて。

◎医療、介護、予防、そして住まい、生活支援に地域包括ケアシステムのような形の構築が必要。また元気な高齢者が多く、運動、社会参加に積極的に進んで、健康寿命を延ばしていく事が必要であると思う。



水石 玲子

◆青少年の政治参加の意識向上を

問主権者教育について、4月の市議会議員選挙の18歳、19歳の投票率は、
 答18歳が33・47%、19歳が29・67%。
 問教育現場での主権者教育の現状は。

答社会科で選挙や政治の学習、家庭科での消費生活、道徳での勤労や公共の精神を扱う学習、生徒会選挙について考える話し合い活動など実施。

問小学生向け主権者教育動画についての認識と今後の取り組みは。

答小学生に親しみやすく、身近で楽しんで主権者について学べる。今後社会科での政治のはたらきの学習、児童会選挙での活動の際に活用する。

問子ども議会の開催のお考えは。

答中学生サミットを輪番で議長校行っている。中学生サミットとの整合性を絡めながら、今後検討していく。
 問駅前やスーパーなどに移動期日前投票所の設置のお考えは。

答オンラインの回線、人件費、場所、

設置の費用等の問題があるため考えていない。

◆安全対策について

問学校安全計画は策定してあるのか。

答市内全ての小・中学校において、策定してある。

問今後の取り組みは。

答通学路安全点検、授業での安全指導、生活の目当て、命を守る訓練等、再度学校安全計画の見直しをする。

問子ども110番の家は何軒あるのか。更新や運用はどのようにしているのか。

答413軒あり、子どもたちの手紙を届けたり、学校職員、PTA役員が、確認をしている状況。各学校に適切な運用を働きかけていきたい。



子ども110番のいえの目印看板

◆公園の整備について

問今年度、公園施設の維持管理補修の計画は。場所、期間、点検方法。

答総合公園、東公園、市内63ヶ所の都市公園、年1回点検している。点検方法は、目視、触手、聴音、打音、振り動かし、ノギスでの測定。

《第3回定例会一般質問》



北谷 峰二

土岐市総合病院について

◆病院指定管理者協定書について

問現在医師23名は残って頂けるのか。後任の医師確保は。辞めようとする医師の引き留め交渉は。

答J A岐阜厚生連と市の方で協力しながら先月から面談をしているが始めたばかりで情報を今つまびらかに公表する段階ではない。

問来年再スタートするが従前から医師確保が難しいと、ことごとく言われているが看護師やコメディカルの皆さん等人材確保が本当に間に合うのか。

答指定管理者であるJ A岐阜厚生連と協力して医師、看護師、コメディカル等の確保に当たっていききたい。

問協定書に救急確保がうたわっているが救急の確保は出来るのか。

答結局は人が行うものであり医師、看護師、コメディカル、こういった方の確保に今後も努めていく。

◆市民バスについて

問高齢ドライバーが免許証自主返納する時代になってきている。バス停

の位置を一度見直すべきでは。

答近年アンケートをとっているがバス停の増設や位置変更と言った要望はない。そう言うものが多く上がってきたらやはり見直さなければならぬと思うている。

◆通学路安全対策について

各学校に登下校時における児童・生徒の安全確保の徹底についてを通知。今回の事故事件を受けて先ずガードレール設置、児童・生徒の待機場所の安全確保を県へ要望。【実例―通学路途中に押しボタン信号機がありボタンを押すと青になる時間が僅か20秒。これで渡るのは凄く大変。信号待ちで100m近く子どもたちが並んでいる横で対向車のすれ違い、横からも車が来る】

問子どもたちが通学路に滞留している時間が長いことが大きなリスクと思うが。

答信号の長さについては色々な方々のご協力を得ながら改善出来る事は最大限教育委員会も関わらせて頂く。集合場所から出発する時間を多少時間差を変えていけないかや、学校始業に対する配慮やその辺を安全優先で総合的に物理的な面で改善出来ないかという点とこちら側の努力で改善出来ないかという両面で学校と詰めて行きたいと思っている。